

Q JR札沼線の今後は

A 利用促進、維持存続に向けPRする

Q 人口減少抑制施策の成果は

A 定住促進事業の効果がみられる

JR札沼線の今後は

進藤久美子 議員



**質問** JR北海道は、札沼線の減便を3月のダイヤ改定で実施すると発表した。終着駅しんとつかわ利用促進事業が予算措置されてはいるが、札沼線の今後について町長はどのように考え、どのような取り組みを進めるのか伺う。

**町長** JR札沼線の減便にあつては、昨年9月30日に公式報道された。内容は3月のダイヤ改正から新十津川町と浦白間の便数を1日1便とするものである。沿線自治体の月形町長、浦白町長とともにJR北海道本社を訪れ、札沼線の運航便数維持を求める要請活動を行った。JR北海道は「1日の駅利用者が10人以下の線区及び営業係数（100円の

営業収益を得るためにかかる経費）が極端に高い線区は減便対象とする。」との意思表示を曲げることなく、要請活動は平行線で妥協点を見出すに至らず、3月26日からのダイヤ改正により減便が決定した。

これまで終着駅のイメージを観光や町のおもてなし玄関として活用や啓発を多くの住民に協力を得て進めてきたことを思うとき極めて残念な結果となった。3町は、札沼線の利用促進、維持存続に向けたPRポスターを作成するなどの取り組みを進める。

本町としては、「日本一早い最終列車が出るまち」としてのアピール内容の検討、最終列車到着後の町内での楽しみ方をマップ化することなどを検討、研究していく。

人口減少問題は

**質問**

2月29日現在の人口動態を見ると、前年同期と比較し67人の減となっている。町は、人口減少に歯止めをかけるべく様々な施策をとってきたにも関わらず、このような結果となった原因は何だと考えるか。

**町長** 人口減少問題は、地域活力の衰退や労働力の減少、購買力の低下など、私たちの生活に様々な影響を及ぼすことから、何としても、その減少幅を小さくしようと、インフラの整備や住民生活に密着したソフト事業を推進してきた。しかし、本町の人口は、先の国勢調査の速報値において、6844人となり、前回調査に比べ409人、率にして5.6%のマイナスとの結果が報じられた。

厚生労働省の機関である国立社会保障人口問題研究所が平成25年に実施した将来推計人口と今回の国勢調査結果を比較した興味深い報道があった。空知管内市町の中で、同研究所の推計値を上回ったのは、赤平市、滝川市、奈井江町そして新十津川町の4つの自治体だけであったと記されている。ちなみに、本町は推計値より60人の増となっている。

同研究所の推計は、出生率、将来生存率、社会的移動率を加味した手法で実施されており、出生率、死亡率数に際立った変化がない本町が、推計を上回る結果となったのは、「社会移動」によるものと推測される。

人口減少社会の克服は容易なことではないが、これまで積み重ねてきた住みよいまち、子育てへの支援等に加えて、町外からの転入を促す定住促進事業も一定の成果を挙げていると認識している。

国勢調査における本町の人口・世帯数の推移

年度	人口総数(人)	世帯数(戸)
平成2年	8,787	2,574
7年	8,363	2,645
12年	8,067	2,716
17年	7,684	2,789
22年	7,249	2,694
27年	6,840	2,579



札沼線車両(左)とJR新十津川駅舎(右)